（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第一小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	学習課題を明確に示し協力し合い課題解決させたり、学習の最後に振り返りを行い自己の学習状況を意識させたりすることで、主体的に学習に取り組める授業を目指す。	中間評価		最終評価	
環境作り		児童が主体的に学習に取り組めるように、学習課題やまとめを板書で分かりやすく提示していく。児童が進んで行動できるように、教室内の表示や掲示物の内容や配置を工夫する。				

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語				
	算数				

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学・文章を書くことに抵抗なく取り組むことができる児童が多い。 ・文章の内容を概ね理解して読むことができる。 ・考えやその理由を発表する児童もいるが、苦手意識をもつ児童もいる。	・文章を書く際に、漢字、助詞や句読点、拗音、促音などを正しく書くことができない児童がいる。 ・文章を読んで感想を書いたり、登場人物の気持ちを想像したりすることに苦手意識をもつ児童がいる。	・学習中の机間指導や、提出課題の内容把握の際に細かく点検し、その都度正しい字を指導する。 ・交流する機会を増やして様々な考えに触れさせる。 ・細やかな机間指導を行い、書くことに困り感をもつ児童への個別指導を行う。		
	算数	学・簡単な計算の定着に個人差がある。 ・自分の考えを発表することに苦手意識をもつ児童が見られる。	・正しく立式することができても、計算の段階でつまづく児童が見られる。 ・友達の考えを最後まで聞き、感想や質問を述べることを苦手にしている。	・既習事項の定着度を高めるために、計算カードなどを活用して指導を続ける。 ・ペアでの発表、全体での発表とスモールステップの指導で、自分の考えを発表することに慣れさせる。		
3	国語	調学力調査の結果から、「漢字を読む」ことについては、区の平均より０．６ポイント低い。 学どの児童も一生懸命に学習に取り組むが、学習内容の定着度に個人差がある。文を書くことや意見を発表することについても同様の状況が見られる。	・習った漢字を日常の中で使うことが少なく、定着に結びついている。 ・自分の考えで大事な部分を、伝えること力が十分でない児童も見られる。	・日頃の練習だけでなく、定着を図る小テストも取り入れて、習った漢字を日常で使えるようにしていく。 ・自分の考えをもつための時間を確保し、伝える、聞くそれぞれの観点をもって活動できるようにしていく。		
	算数	調学力調査の結果から、「時刻と時間」「長さ・かさ」の内容が区の平均よりもそれぞれ２．２ポイント、３．３ポイント低い。	・かけ算九九や単位換算の定着に個人差が見られる。 ・自分の考えを発表したり、相手の考えを聞いたりする経験が少ない。	・かけ算九九の復習を続け、定着を確かなものにする。 ・単位の量感を体験する機会を増やし、習得できるようにしていく。 ・自分で解き方を考える時間を確保し、それを友達と交流していくようにする。		
4	国語	調国語が区の平均よりも、６．２ポイント高かった。全領域を通じて力がついていることがわかる、特に「書く力」については、区の平均より１０ポイント以上も高い。一方で、「話す、聞く」力の個人差が大きいので、重点を置いて指導していく。 学新出漢字の習得について個人差が大きい、丁寧な繰り返しの練習に加え、覚え方や活動のしかたについて取り上げる。	・「話す・聞く」力の習得に個人差がある。 ・話の中心点を押さえながら聴くことが不十分である。 ・新出漢字や語彙の定着に個人差が見られる。	・話の中心点を考えながら、必要なことをメモをとる話の聴き方を指導する。よい話し手を手本として練習する。 ・スピーチ活動を取り入れ、話し手になる経験を積む。 ・新出漢字の繰り返しの練習。約２週間ごとの小テストで定着度を確認する。誤答を中心に練習をすることで、定着を図る。		
	算数	調算数が区の平均よりも４．３ポイント高かった。全体としては上位グループが多く、算数に対する関心・意欲も高い。 その一方で、たし算やひき算に関する学習内容が定着が十分とは言えない児童もいる。 学意欲的に学習に取り組める児童が多い。テストやプリントの間違いをやり直して粘り強く取り組める児童は、力も定着してきている。	・繰り上がり繰り下がり、かけ算九九などの基礎基本の定着に個人差が見られる。 ・１枚のプリント、１つの問題をできるまで粘り強く取り組むことが苦手な児童が見られる。	・東京ベーシックドリルを基本に、学習している単元の全学年での定着を確認し、不確かになっている部分を復習する。 ・学習したことを理解し、安心して学習を進められるよう、こまめに計算ドリルで復習していく。全体が間違えやすいポイントは全体で、定着しにくい児童へは個別で指導を行っていく。		

5	国語	調全領域において、区の平均を上回る結果であった。特に漢字を書く力に関しては大きく上回っている。 学学習に対しては領域にかかわらず意欲をもって取り組む児童が多く見られる。既習の漢字を使用せずに文章を書く児童が見られる。	・漢字の習得状況に大きな個人差が見られる。 ・文章をまとめる時に、既習の漢字を使用せずにひらがなでまとめてしまう児童や筋が通っていない文章を書く児童がいる。	・家庭学習や長期休業中の課題として、当該学年の新出漢字のみでなく、第４学年までにおける漢字についても取り扱い、理解を深める。 ・国語科の書く活動の指導の中で、文章構成を考える力をつける指導を、表にまとめたり付箋を用いたりして、充実させていく。		
	算数	調全領域において、区の平均を上回る結果であった。特に「計算のきまり」の領域では大きく上回っていることからも計算に関する理解は十分であると分かる。その一方面積の領域では、上回っているものの、平均と近い数値であった。 学学習に進んで取り組む児童が多い。自分の考えを文章にまとめることができる児童と苦手としている児童の力の差が大きい。既習内容の定着が十分でない児童も見られる。	・面積の領域への課題から体積に関しても同様の傾向が見られると考えられる。 ・問題に対する解決方法についての自分の考えを文章や式、図を用いて表現する力に個人差が見られる。 ・既習の内容の定着が十分でない児童が見られる。	・体積の学習に入る際には、面積の学習に関する既習の内容を復習させた上で体積に関する学習を展開していく。また、ICT 機器を活用して、体積の求め方を視覚的に捉えて理解できるように指導を工夫する。 ・授業において考えを表現する場面を設定し、解決の見通しをもたせたり、表現方法について確認したりして、児童の習熟度に応じた手立てを講じ指導する。 ・東京ベーシックドリルを朝自習や家庭学習で計画的に取り組ませ、既習の内容の定着を図っていく。		
6	国語	調平成３０年度の新宿区の学力調査では、「漢字を書く」「言葉の学習」の項目、どちらも区の平均を上回った。 調区学力調査の「書くこと」領域の平均が区の平均を５ポイント上回った。書くことの指導が児童の力になっていると思われる。 学基本的な読解力は身に付いているが、記述に対する自己の考えをもつことや、それを表出することに課題がある。また、学習内容の理解や意欲的な姿勢についても個人差が大きい。	・漢字や学習課題についての理解、意欲に個人差が見られる。 ・自己の考えを言語化したり、相手に伝えたりする表現力に課題が見られる。	・既習漢字や新出漢字を確実に覚えられるよう、朝自習や家庭学習の時間に漢字や言語を学ぶ学習を取り入れる。 ・言語活動の充実を図り、語彙を増やせるようにする。		
	算数	調平成３０年度の区の学力調査では、全領域において区の平均を上回った。特に図形領域は５ポイント上回り、基本的な内容は十分習得できている。 調活用の部分において、区の平均を少々下回った。学んだことを応用して問題を解決できるようにするために、授業の中で、複数の領域を組み合わせた問題を取り扱う必要がある。 学既習事項の理解や、算数的・論理的な思考力に個人差が見られる。課題に対する理解に時間がかかったり、解き方の説明に困難さを示したりする児童も多い。	・基本的な既習事項の習得に個人差が大きい。 ・算数的な考え方をすることや表現することに苦手意識がある児童が多い。また、全体的に活用でのつまずきが見られる。	・児童の実態に合わせそれぞれの習熟度に応じた教材を準備したり、課題に取り組ませたりすることで、理解を確実なものにしていく。 ・学級全体で学習課題に対する見通しをもったり、自己の考えや友達の考えを交流する時間を確保したりして、児童が自己の考えを表現できるようにしていく。		
音楽		・歌ったり楽器を演奏したりすることが好きな児童が多く見られる。	・より豊かな表現を目指したり、思いや意図を表現につなげたりすることが苦手な児童が見られる。 ・技能の定着に個人差が見られ、自信をもてない児童が見られる。	・ペア活動やグループ活動の中で、友達の演奏や思いに触れることによって、互いに認め合い、自分の表現をよりよくしていく力を育てる。 ・必要に応じて個別指導を行い、スモールステップで、できた達成感や喜びを感じられるようにする。		
図工		・豊かな発想をもち、自ら工夫して表現できる児童が多い。 ・特に高学年では苦手意識をもっている児童に対して手だてが必要である。	・児童によっては工夫して自己表現することや、表現したものを見せることに対して自信のない様子や消極的な様子が見られる。	・回の授業で振り返りを行い、できたという達成感を積み上げることで自己肯定感を高めていく。また、鑑賞の授業を計画的に行い、よさを認め合う態度を育てる。		
特支		・自己肯定感が低く、称賛を受けることになれていない児童がみられる。 ・読んだり書いたりすることに課題を抱えている児童が多い。 ・指示を聞き取ったり、覚えていたりするのが難しい様子がみられる。 ・コミュニケーションをとるのがかなり苦手としている児童が存在する。 ・体の使い方がぎこちなかったり、姿勢を保ったりすることが困難な児童がいる。	・自己肯定感が低いために、様々な学習活動に意欲的に取り組むことが十分とは言えない。 ・読んだり書いたりすることは、全教科・領域にかかわるため学習に困難を感じる要因となっている。 ・相手の気持ちを想像することが難しかったり、自分の気持ちや考えを適切に表現できなかったりして、上手く人間関係を築くことが苦手な児童が見られる。 ・自分の体を上手くコントロールできないため、学習に集中することが難しい。	・『頑張りシール』など視覚化した教材を使い、できたことを実感できるようにしたり、スモールステップで課題に取り組みできた経験を積ませたりする。 ・個の特性に応じた認知トレーニングを行ったり、教材を使用した学習を行ったりする。 ・ソーシャルスキルの課題を行ったり、少人数での活動を行ったりしてコミュニケーション能力を高め、学級に汎化させる。 ・感覚統合の運動を取り入れる。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。